

## セミナーのご案内

今回配布先を限定しておりますので、関係各位へのご回覧につき、ご高配をお願いいたします。

回					
覧					

教授法・FD シリーズ 9(通算 391 回)

2008 年 7 月 29 日(火)

参画型授業のツールと実際

# 学生応答システムを用いた 双方向型授業の新展開

教授法・FD シリーズ 10(通算 393 回)

2008 年 7 月 31 日(木)

可視化による“省察”“改善”の実質化

# ティーチング・ポートフォリオの積極的導入

参画型授業のツールと実際

## 学生応答システムを用いた双方向型授業の新展開

～ 運用法とコツ / 学習効果・効率向上 / 国内外の導入事例 ～

多人数対象の双方向型授業 / ピア・インストラクション / クリッカーを活用した授業実践例  
医学部各科での Polling Pad 使用例 / iPod による授業補完 / Intranet の補助教材  
学生はなぜ無口? / 携帯電話コメントカードシステム / Web ポートフォリオ化  
Audience Response System の開発・普及動向 / TurningPoint の利点・コスト / 国内外活用例

### 講師陣

新田 英雄 氏 / 東京学芸大学教育学部基礎自然科学講座教授  
佐藤 徹 氏 / 慶應義塾大学医学部医学教育統轄センター准教授  
宮田 仁 氏 / 滋賀大学教育学部教授、教育実践総合センター長  
山川 達也 氏 / KEEPAD JAPAN(株) プレゼンテーションサービス

2008 年 7 月 29 日(火) 日本教育会館 会議室 (東京・神保町)

可視化による“省察”“改善”の実質化

## ティーチング・ポートフォリオの積極的導入

～ 教育記録 < シラバス / 実践 / 評価 / 改善 > エビデンスの活用 ～

TP の役割・作成方法 / 能動的学習のためのシラバス / 国内外の実践・活用例 / TP 導入シナリオと実際  
授業アンケートの効果と限界 / TP による評価・改善 / 教育改善情報の共有・発信 / e-TP

### 講師陣

土持ゲーリー法一 氏 / 弘前大学 21 世紀教育センター高等教育研究開発室教授  
加藤 由香里 氏 / 東京農工大学大学教育センター准教授

2008 年 7 月 31 日(木) 日本教育会館 会議室 (東京・神保町)



地域科学研究会・高等教育情報センター

[ 参加要領 ]

学生応答システムを用いた双方向型授業の  
新展開

日 時：2008年7月29日(火) 10:00～16:40  
 会 場：日本教育会館 会議室 (東京・神保町)  
 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2  
 アクセス：東京メトロ半蔵門線・都営新宿線  
 「神保町駅」A1 番出口より徒歩 3分  
<http://www.jec.or.jp/koutuu/> 03-3230-2833  
 会場の地図及び受講証を送付しますので  
 必ずご確認ください。  
 参加費：A. 一名(資料代込)  
 40,000 円(消費税込)  
 B. メディア参加(資料・カセットテープ送付)  
 41,000 円(送料、消費税込)

ティーチング・ポートフォリオの積極的導入  
 日 時：2008年7月31日(木) 10:00～17:00  
 会 場：日本教育会館 会議室 (東京・神保町)  
 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2  
 アクセス：東京メトロ半蔵門線・都営新宿線  
 「神保町駅」A1 番出口より徒歩 3分  
<http://www.jec.or.jp/koutuu/> 03-3230-2833  
 会場の地図及び受講証を送付しますので  
 必ずご確認ください。  
 参加費：A. 一名(テキスト・資料代込)  
 41,000 円(消費税込)  
 B. メディア参加(テキスト・資料・カセット  
 テープ送付) 42,000 円(送料、消費税込)

【指定テキスト】土持ゲーリー法―(2007) <事前送付>  
 『ティーチング・ポートフォリオ：授業改善の秘訣』東信堂

参加費の払い戻しはしませんので、申し込まれた方が都合の悪いときは代理の方がご出席ください。

FD・SD 及び BD 研修の本格化に伴い、2007 年から受講・修了証明書を発行しております。

申込方法：参加申込書に所要事項を記入のうえ FAX または E-mail にてご送付ください。

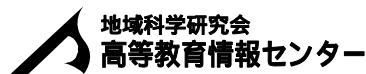
支払方法：銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。

みずほ銀行麹町支店 普通 1159880 三菱東京 UFJ 銀行神田支店 普通 5829767  
 三井住友銀行麹町支店 普通 7411658 郵便振替 00110・8・81660

全ての口座名 < (株)地域科学研究会 >

ご請求なき場合は振込受領書を領収書に代えさせていただきます。

申 込 先：地域科学研究会・高等教育情報センター  
 東京都千代田区一番町 6-4 ライオンズ第 2-106  
 Tel: 03(3234)1231 / Fax: 03(3234)4993  
 E-mail: [kkj@chiikikagaku-k.co.jp](mailto:kkj@chiikikagaku-k.co.jp) URL: <http://www.chiikikagaku-k.co.jp/>



キリトリ線( 参加申込みの折は必ずお送りください)

研修会参加申込書

2008 年 月 日

教授法・FD シリーズ 9  
 学生応答システムを用いた双方向型授業の新展開 当日参加 メディア参加

教授法・FD シリーズ 10  
 ティーチング・ポートフォリオの積極的導入 当日参加 メディア参加

勤務先 \_\_\_\_\_

所在地 〒 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_ 連絡部課・担当者 \_\_\_\_\_

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

通信欄 支払方法(郵便振替・当日払い・銀行振込) 必要書類( 請求書 見積書)

この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講義項目
10:00 ↓ 11:20	<p style="text-align: center;"><b>クリッカーを活用した双方向型授業 ～ピア・インストラクションの実践～</b></p> <p style="text-align: right;">東京学芸大学 新田 英雄</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 米国で進む基礎物理教育の改革                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 伝統的な講義から双方向型授業へ</li> <li>(2) ワークショップ形式の双方向型授業</li> <li>(3) 大人数を対象とした双方向型授業</li> </ul> </li> <li>2. ピア・インストラクション                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ピア・インストラクションとは</li> <li>(2) ピア・インストラクションは日本生まれ?</li> <li>(3) ピア・インストラクションの効果を測る</li> </ul> </li> <li>3. クリッカーを活用した授業実践                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) クリッカー運用のポイント</li> <li>(2) 様々な授業での利用</li> <li>(3) 授業改善への活用</li> </ul> </li> </ol> <p style="text-align: right;">質疑応答</p>
11:30 ↓ 12:50	<p style="text-align: center;"><b>“Polling Pad”活用による学生参加型講義形態の導入と組織的取組 ～クイズからディスカッションへ / iPod、Intranet による学習補完 / 実施・支援体制～</b></p> <p style="text-align: right;">慶應義塾大学 佐藤 徹</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学教育における Polling Pad を使用した双方向型授業                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 医学部における Polling Pad 教育の取り組み</li> <li>(2) 授業での使用方法 (各科における実例)</li> </ul> </li> <li>2. 双方向型授業を補完する iPod、Intranet を使った教育                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 診察手技の iPod による習得</li> <li>(2) 医学教育への iPod の多彩な応用</li> <li>(3) Intranet を使用した補助教材の展開</li> </ul> </li> </ol> <p style="text-align: right;">質疑応答</p>
13:50 ↓ 15:10	<p style="text-align: center;"><b>双方向性をもつ知識創造型ユビキタスな学び ～携帯電話対応コメントカードシステムを活用した大人数講義の活性化～</b></p> <p style="text-align: right;">滋賀大学 宮田 仁</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 18年～20年度 文科省採択 現代 GP「知識創造型ユビキタスな学び」とは                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 知識創造型で双方向性を促進する学習環境とは(日本の大学生は、なぜ無口?)</li> <li>(2) 学生のケータイを学習者情報発信端末へ転換する</li> <li>(3) 学生のコメントをリアルタイムでデータベース化し、Web ノートを構築する</li> </ul> </li> <li>2. 携帯電話対応 CCS を活用した遠隔講義(遠隔2キャンパスでの共通講義)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 講義中に遠隔キャンパス共通で受講者の携帯電話でアンケートを実施する</li> <li>(2) 講義中に遠隔キャンパス共通で受講者の携帯電話で小テストを実施する</li> <li>(3) 講義中に遠隔キャンパス共通で自分や他者の意見を検索し、ディベートする</li> </ul> </li> <li>3. 携帯電話対応 CCS の管理者用コンテンツ・オーサリングシステム                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ワープロ感覚でアンケート、小テスト、自由記述の質問項目を設定可能</li> <li>(2) 受講者のコメントをリアルタイムでデータベース化して、テキストマイニングする</li> <li>(3) 受講者のコメントを Web ポートフォリオ化し、縦断的・横断的検索し、進捗をチェック</li> </ul> </li> <li>4. 携帯電話対応コメントカードシステムに関する Q&amp;A                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 携帯電話を所持していない学生への対応 PSP(SONY)と無線 LAN を活用</li> <li>(2) 学生負担となるコストはいくら? 対費用効果は?</li> <li>(3) 受講者の本人認証の問題 デジタル代返防止機能を実装している</li> </ul> </li> </ol> <p style="text-align: right;">質疑応答</p>
15:20 ↓ 16:40	<p style="text-align: center;"><b>学習者が求めるクラスルームの創造 ～学習効率を向上させる参加型教育ツール～</b></p> <p style="text-align: right;">KEEPAD JAPAN(株) 山川 達也</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Audience Response System(以下 ARS)とは?                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ARS が開発された目的                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーション能力の問題</li> <li>学生の授業参加度と満足率の関係</li> <li>能動的授業の効率性</li> </ul> </li> <li>(2) ARS の普及状況 海外 国内</li> <li>(3) ARS の種類                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>通信タイプ・・・赤外線タイプ、無線電波タイプ、ブラウザタイプ</li> <li>ソフトウェア・・・パワーポイント連動タイプ、独立ソフトウェアタイプ</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>2. ARS の利用方法                             <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) TurningPoint を使う為に必要な物、パソコンのシステム要件</li> <li>(2) TurningPoint 利用までのステップ                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>スライドの作成</li> <li>ハードウェアの設定</li> <li>参加者リストの作成</li> </ul> </li> <li>(3) TurningPoint 上級者向けメニュー                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>比較スライド</li> <li>デモグラフィックスライド</li> <li>グループワーク</li> <li>条件分岐</li> </ul> </li> </ul> </li> </ol>

(4)TurningPoint 利用時の注意点			
3. TurningPoint の実用例	(1) 海外の事例	(2) 国内での事例	大規模セミナー 小規模ワークショップ
4. ARS は普及するのか？	(1) 必要性	学習意欲の充実	学習定着率の向上 出席率の改善
	(2) コスト	経済的投資	時間的投資
5. 今後のチャレンジ	(1) コンテンツの充実	(2) 教育界の意識改革	質疑応答

Polling Pad、TurningPoint レスポンス・カード(通称・クリッカー)は同じ機器となります。

## ティーチング・ポートフォリオの積極的導入

2008年7月31日(木)

時間	講義項目
10:00 ~ 11:40	<p>ティーチング・ポートフォリオによる FD 活動のすすめ ～ 教員個人に対する授業評価から情報共有による組織的な授業改善へ～ 東京農工大学 加藤 由香里</p> <p>1. 授業アンケートの効果と限界 (1) 定型的フォーマット：項目数、回答方式の固定化 (2) 実施時期：中間・期末 (3) コスト：処理時間、人員確保、学生の負担 (4) 個人 PDCA サイクルから部局・大学全体 PDCA へ</p> <p>2. 教員の自発性・主体性を生かすティーチング・ポートフォリオによる評価・改善 教員による自発的な改善活動の把握 (1) 教員アンケート(東京農工大の事例) (2) 状況調査から改善活動評価へ データの収集と整理 授業アンケート、同僚によるコメント(授業公開)、教科書・eラーニング作成、 各種 FD セミナー受講歴 (3) 多様な評価指標の提案 ティーチング・ポートフォリオ</p> <p>3. 教育改善に向けた情報の共有・発信 (1) 教育改善秘訣集(東京農工大学版) 授業アンケートのコメント集約 (2) コンサルテーション・サービス ICT 利用を中心に (3) 授業改善・教育スキルアップに向けた学内・学外連携 (4) ネットワークを利用したピア・レビューシステムの開発 (5) e ティーチング・ポートフォリオ：教育改善のための秘訣アーカイブ 質疑応答</p>
12:40 ~ 14:20	<p>ティーチング・ポートフォリオを活用した授業改善の秘訣 ～ 授業実践記録による教員の授業に対する「省察」～ 弘前大学 土持ゲーリー法一</p> <p>A. ティーチング・ポートフォリオの理論と実践</p> <p>1. ティーチング・ポートフォリオの理論 (1) ティーチング・ポートフォリオの役割 (2) ティーチング・フィロソフィー(授業哲学)の確立 (3) 能動的学習のための授業シラバスの見直し</p> <p>2. ティーチング・ポートフォリオの実践 (1) 海外の実践例 : カナダ・ダルハウジー大学 (2) 海外の実践例 : カナダ・クイーンズ大学 (3) 弘前大学の取組：「教育者総覧」の作成 質疑応答</p>
14:30 ~ 16:10	<p>B. ティーチング・ポートフォリオの作成方法と活用</p> <p>3. ティーチング・ポートフォリオの作成方法 (1) ティーチング・ポートフォリオ用ファイルボックスの準備 (2) 証拠資料：学生による授業評価や同僚による授業評価などの収集 (3) メンターリングの重要性：FD コンサルタントの導入と活用</p> <p>4. ティーチング・ポートフォリオの活用(カナダの場合) (1) 労働協約上、研究(40%) 教育(40%) サービス(20%)と規定 (2) ティーチング・ポートフォリオの活用：教員の「義務」ではなく「権利」 (3) 授業改善としての活用：学科長による評価権限・指導権限の重視</p> <p>C. [提言] ティーチング・ポートフォリオの導入シナリオ 質疑応答</p>
16:20 ~ 17:00	<p>ディスカッション・交流タイム ～ ティーチング・ポートフォリオの導入に向けて～ パネラー 土持ゲーリー法一氏 / 加藤由香里氏 司 会 青野友太郎(地域科学研究会・高等教育情報センター)</p>